



とよなかの環境

2024年度 速報版

豊中市では「第3次豊中市環境基本計画（改定）」に基づいて環境施策を進めています。「とよなかの環境・速報版」（豊中市環境報告書）では2024年度（令和6年度）の活動実績をふまえて、環境目標に対する取組みの進ちょく状況の速報結果等を公表しています。

環境目標

目標1

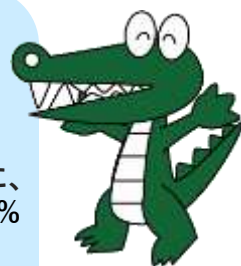
よりよい環境をめざして多様な主体のパートナーシップで取り組む



目標2



1人あたり
温室効果ガス排出量（t-CO₂）
を令和9年度（2027年度）までに、
平成2年度（1990年度）比38.3%
削減し、脱炭素社会をめざす



目標3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



目標4

みどり率27%で
心豊かな豊中らしい
まちをめざす



目標5

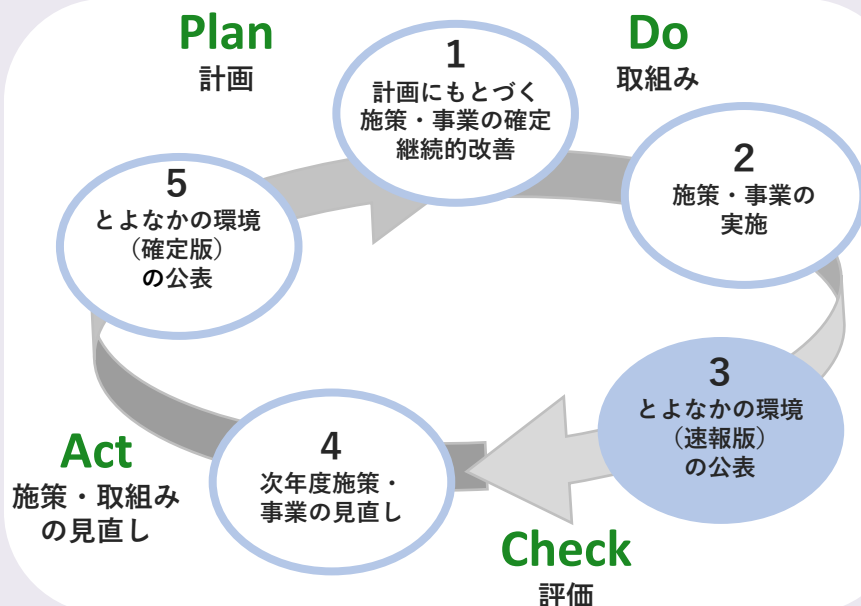
環境基準の達成状況100%で
快適な都市環境をめざす



計画の進め方

計画の推進を着実に図るために、PDCAサイクルによって毎年度、活動を評価し、進行管理を行っています。

環境審議会と市民のみなさんからのご意見やご提案をもとに施策・事業を見直し、改善を図りながら、目標の実現をめざして取り組んでいきます。



目標1

速報版では、「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」をテーマに実施した「協働の取組みに関する意見交換会」の開催結果について紹介しています。

目標2～5

豊中市の人口と
比べながら、
成果を見てみよう

環境目標の進ちょく状況について、「どうしてこのような結果になったのか」要因分析をしています。



目標 1

よりよい環境をめざして
多様な主体のパートナーシップで
取り組む



2024年度 of 取り組み

環境交流センター

環境交流センターを起点に、地球環境保全等に関する活動のための交流の場の提供、情報の収集及び提供、講座の開催及び啓発などを実施



事業者等との連携

ペットボトルリサイクル協定

使用済みペットボトルの一部を新たなペットボトルにリサイクルするBtoB（ボトルtoボトル）に関する協定を締結



SAFに関する連携協定

廃食油を原料としたSAF（持続可能な航空機燃料）の製造推進に関する協定を航空会社と締結



協働の進ちょく状況

「協働の取り組みに関する意見交換会」のテーマ

「使用済み子ども服を活用した資源循環の取り組み」

豊中市における「使用済み子ども服を活用した資源循環の取り組み」関係図

令和4年度意見交換会で子ども服リユースの実証実験結果について発表



実施したいアイデア

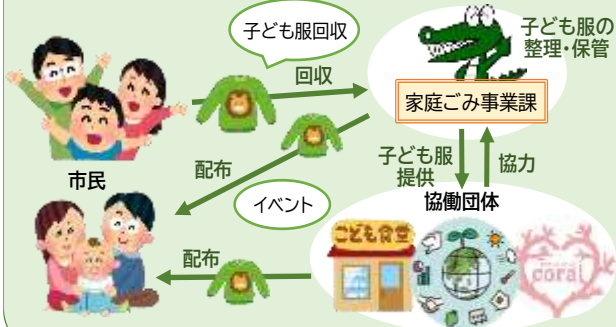
- ・ 子ども服リユースを実施している団体同士での在庫や備品の共有
- ・ 地域企業との連携
- ・ 学校教育との連携

課題

- ・ 取り組みの継続性
- ・ リユースを続けていく仕組みづくり
- ・ 継続のための資金調達
- ・ 市民ニーズの把握

発展

取り組み事例1 子ども服リユース



協働団体・連携部局の増加などにより
回収量・配布数が増加

取り組み事例2 おゆずりぐるり

※R6時点 取組み
(環境省モデル事業として実施)

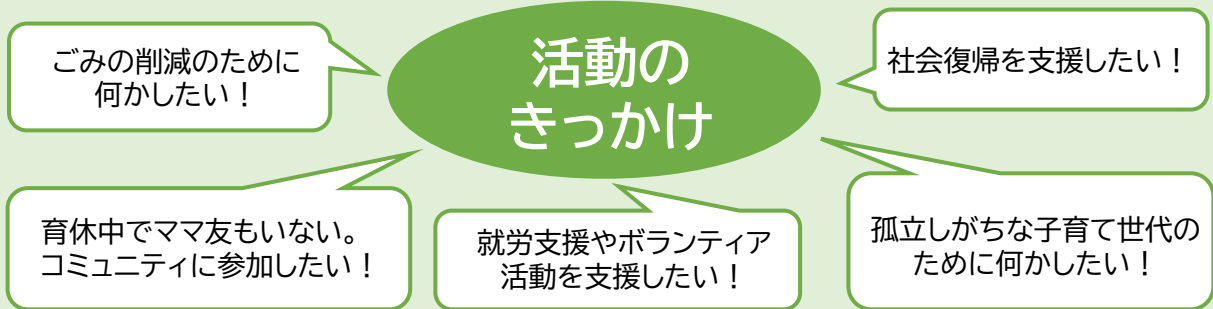


子ども服リユースの仕組みの構築を実現

開催結果【テーマ「使用済み子ども服を活用した資源循環の取組み」】

特徴・成果

①複数の分野・主体による協働の推進



行政の関係部局に加え、子育て支援団体や就労支援団体、事業者や中間支援団体など、様々な立場の団体・主体が様々な活動のきっかけを経て協働に参加している。

②協働のための「仕組み」構築

複数の分野・主体が参加し、子ども服の回収から管理、配布までを含んだ子ども服リユースのしくみ「おゆずりぐるり」を構築している。



協働の広がりが、事業の広がりに繋がり、様々なきっかけにより、人と人とが交流し、新たなコミュニティが形成されている

今後の展望・活動のヒント

意見交換会では、
取組み発展のためのアイデアがたくさんでした。

活動者拡大に向けたアイデア

- ・活動者の世代を広げていく工夫がいると思う。
- ・活動したいと思った人が情報をキャッチできるようにしたい。
- ・学生がやりたい企画と子ども服リユースを組み合わせると新しい取組みをつくれると良い。
- ・ボランティアポイントなど、活動者のモチベーションアップの仕組みが欲しい。
- ・来場者にリユース服のハンガー掛けなどの作業協力をお願いするなど、来場者にも参加してもらえるような取組みができると良い。

利用者拡大に向けたアイデア

- ・SNSを使うなど、効果的な情報の魅せ方が大切だと思う。
- ・子育て世代みんなが情報をキャッチできる工夫が必要である。
- ・環境問題やごみの減量が、堅苦しく考えずに楽しい活動として捉えられるような工夫がいると思う。

持続可能な取組み推進に向けたアイデア

- ・皆が幸福感や満足感を感じられる取組みにしたい。
- ・配送コストや環境への配慮の観点から、回収拠点と配布場所は近い方が良い。



目標
2

1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）を
令和9年度（2027年度）までに、
平成2年度（1990年度）比38.3%削減し、
脱炭素社会をめざす



2024年度 of 取組み

事業者向け
脱炭素経営セミナー

市内の中小事業者を対象に、脱炭素経営を進める必要性等について脱炭素経営セミナーを開催



電気自動車普及啓発

電気自動車等購入
補助金対象者を拡大

事業者向け電気自動車等購入支援補助金の対象を市民へ拡大

市有施設に
EV充電器を設置

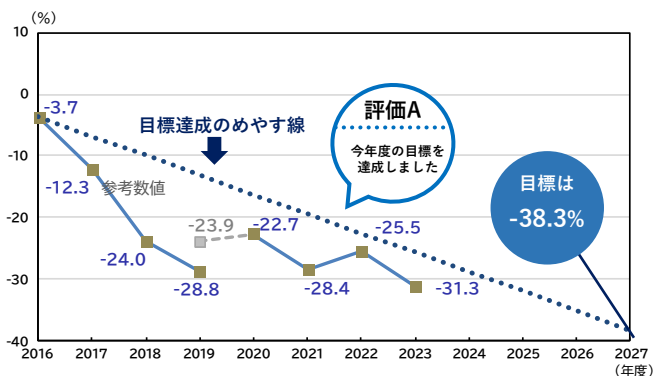
電気自動車の利用環境を整備するとともに、普及促進につなげるため、新たに市有施設2か所にEV充電器を設置



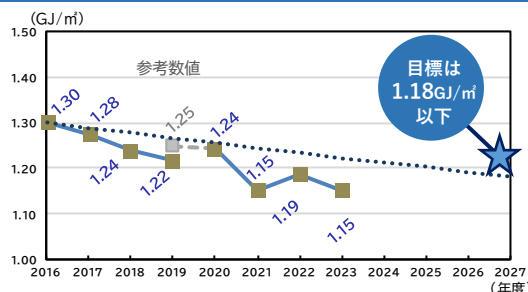
指標の進ちょく状況

代表
指標

市民1人あたり温室効果ガス排出量(t-CO₂/人)
平成2年度(1990年度)比 (%)



業務部門の床面積1㎡あたりの
エネルギー消費量 (GJ/㎡)



※ 2020年度以降、市域の部門別消費電力量のデータの出典が変更となったことから、2019年度以前の推計値と非連続になっています。そのため、2019年度から2020年度の全国的な消費電力量変化が豊中市においても生じたと想定して参考数値を算出しています。

指標		目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
部門別温室効果ガス排出量 (t-CO ₂) 平成2年度(1990年度)比 (%)	産業部門	-66.0	-64.0	-66.6
	家庭部門	-32.0	+1.5	-9.0
	業務部門	-11.0	-9.7	-17.8
	運輸部門	-46.0	-32.1	-32.5
	廃棄物部門	-33.0	-4.6	-14.3

指標		目標	前回値 2022年度	直近値 2023年度
家庭部門市民1人あたりエネルギー消費量 (GJ/人)		減少	13.6	13.1
再生可能エネルギー等設備導入量(kW)		増加	28,772	30,797
市民1人あたりの自家用車の登録台数(台/人)		減少	0.248	0.248
市内に登録された自動車1台あたりの 温室効果ガス排出量(t-CO ₂ /台)		減少	1.39	1.39
市内に登録された自家用乗用車のうち 電気自動車等の割合(%)		増加	26.9	29.7

進ちょく状況に対する要因分析

市民1人あたりの温室効果ガス排出量は、目標達成のめやす線を下回っており、順調に減少しています。

温室効果ガス排出量の減少には、電力の排出係数が前年度より低減した影響が大きいと考えられますが、エネルギー消費量はすべての部門で減少していることから、各部門において省エネ化が進んでいると考えられます。

目標 3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



2024年度の取組み

豊中エコショップ制度のイベント開催

豊中エコショップ制度の周知啓発を目的に、「エコdeさんあい 豊中エコショップ+第13回さんあいイベント」を開催



子どもを中心に広く募集した環境に関する写真や絵画等をラッピングしたごみ収集車のお披露目を併せて実施

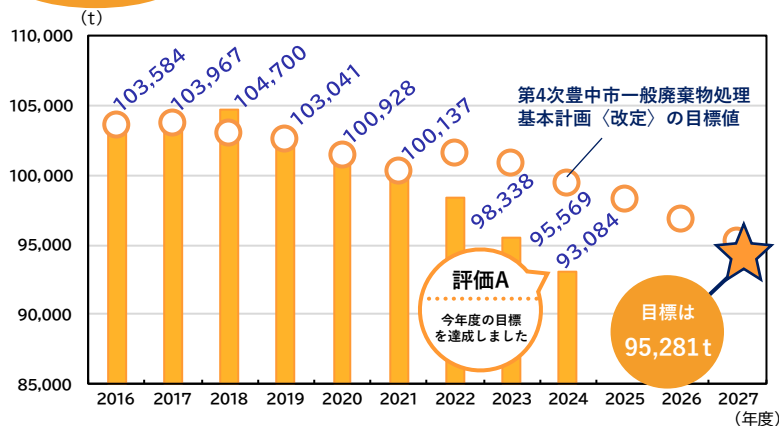
家庭系ごみ排出実態調査の実施

市民のごみ分別意識や排出状況を把握し、市の次期計画に反映させるため、家庭系ごみ排出実態調査を実施

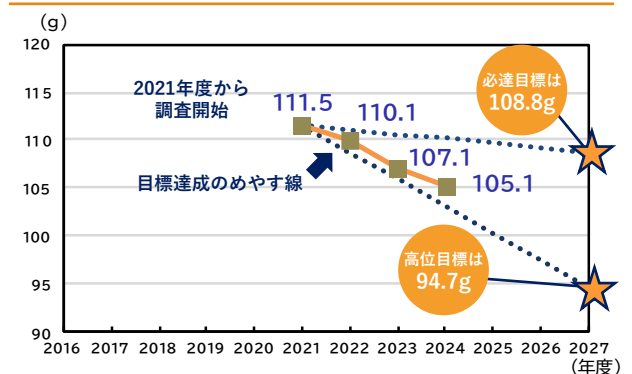


指標の進ちょく状況

代表指標 焼却処理量（t）



食品ロス1人1日あたり量（g）



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
家庭系ごみ1人1日あたり排出量(g) (再生資源は除く)	394	387	379
事業系ごみ排出量(t) (再生資源は除く)	36,601	37,634	36,711



進ちょく状況に対する要因分析

ごみの焼却処理量は、引き続き減少しており、2027年度までの目標値を達成しています。家庭系・事業系共にごみの排出量が減少するとともに、リサイクル率が微増しています。物価高騰による個人消費抑制に伴うごみの発生抑制や、ごみの適正処理の意識の浸透などの影響が考えられます。



目標
4みどり率27%で心豊かな豊中らしい
まちをめざす

2024年度の取組み



とよなか花いっぱい大作戦



花いっぱい運動を拡充した「とよなか花いっぱい大作戦」を開始。花いっぱいのまちづくりをめざし、住民・事業者からサポーターとスポンサーを募集。

グリーンインフラによるまちづくり基本方針

多面的に機能するようみどりの「質」を高めるとともに、憩いの場の創出や賑わい空間の形成などにより、様々な人が集えるよう公園みどりを展開していくことを目的に策定。



緑化樹配布

マンションや企業、学校、こども園などへ、キンモクセイやレッドロビンなどの樹木を配布し市内の緑化を推進

(過去5年間で約12,000本配布)



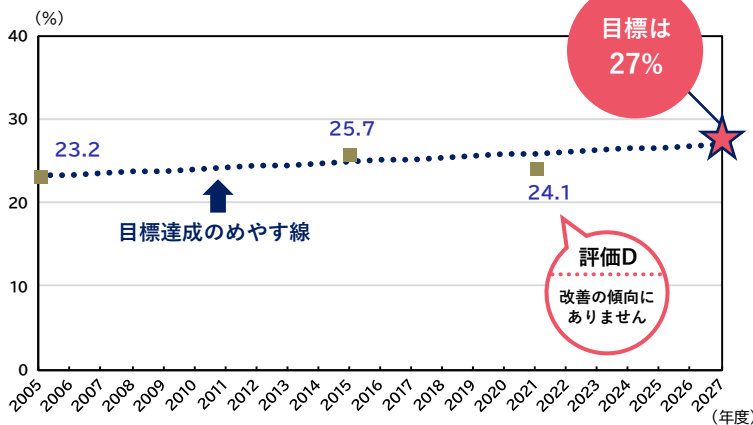
生物多様性の啓発



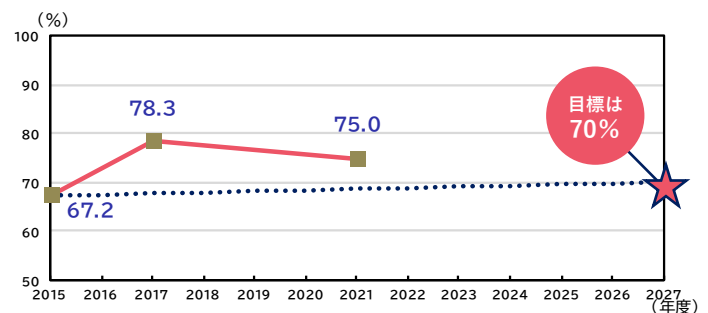
ふれあい緑地のビオトープを活用した生きもの観察や生きものを呼び込むための市民とのフィールド整備など、まちなかの公園で体験できる生物多様性について啓発

指標の進ちょく状況

代表指標 みどり率 (%)



みどりに対する満足度 (%)



指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
緑被率(%)	15.7	—	—
市民1人あたりの公園・緑地面積(m ² /人)	7.17	7.12	7.12
みどりに関するイベント参加者数(人)(累計)	累計 150,000	64,644	79,006

指標	目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
市民参加による生物調査の参加者数(人)	増加	31	53
生物多様性の認知度(%) (「言葉の意味を知っていた」の回答比率)	増加	—	—
景観に関する項目が盛り込まれている地区計画・協定等の数(件)	増加	49	48

進ちょく状況に対する要因分析

みどり率は、開発行為や自然災害の影響による樹林・樹木の減少、草地・芝地・屋上緑化の増加や樹木の生育状況を総合して、減少傾向となっています。

みどりについては、市民参加や環境配慮を重視し、効果的な施策の改善と持続的な取組みが必要です。

みどりに関する指標の用語説明

第2次豊中市みどりの基本計画では、以下のとおり定義しています。

- ◆ みどり：樹林・樹木、草地・芝地、農地、水面、屋上緑化、これらと一体となったオープンスペースなどの緑地のこと。
- ◆ みどり率：樹林・樹木、草地・芝地、農地、水面、屋上緑化が市域に占める割合
- ◆ 緑被率：樹林・樹木の面積が市域に占める割合

環境基準の達成状況100%で快適な都市環境をめざす



2024年度 of 取り組み

民間施設をクールスポットに指定

市有施設に加えて、新たに民間施設3か所を、熱中症対策として一時的に暑さから逃れ休憩できる「クールスポット」に指定



緑化計画の協議

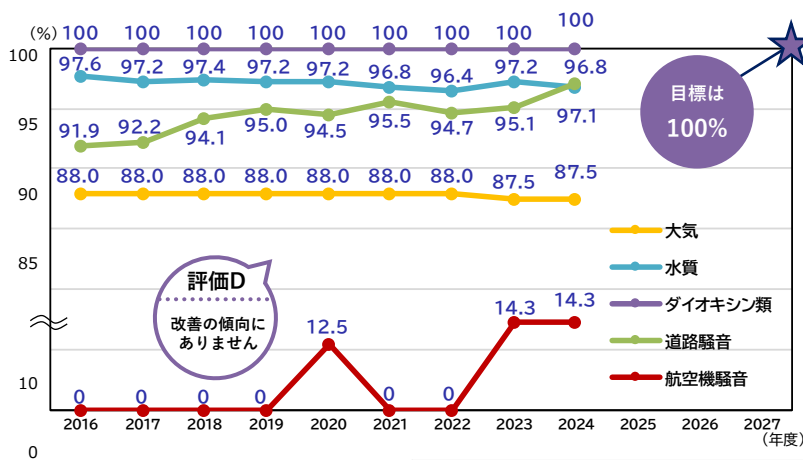
開発行為において、壁面緑化や屋上緑化など多様な緑化計画を協議



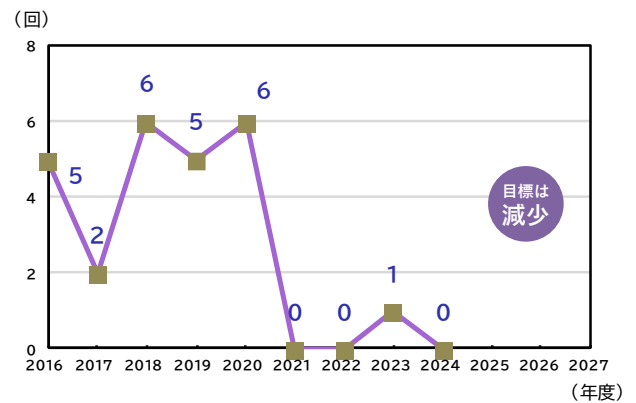
豊中市伊丹市クリーンランドHP

指標の進ちょく状況

代表指標 環境基準達成状況 (%)



大気に関する注意喚起回数 (回) (光化学スモッグ予報・注意報、PM2.5 (微小粒子状物質))



指標		目標	前回値 2023年度	直近値 2024年度
雨水排水整備率 (%)		増加	82.1	82.2
環境配慮のうち 雨水利用に 関するもの (累計)	雨水利用の 件数(件)	増加	11	11
	雨水利用の 容量(L)	増加	202,530	202,530



進ちょく状況に対する要因分析

大気、水質、道路騒音では高い環境基準達成率を維持しています。
環境基準を達成していない項目については広域的な課題・自然由来の影響となっています。
大阪国際空港の着陸ルート直下に位置していることから、航空機騒音は達成率が低い状況が続いています。